

SAH×探究 2年探究活動発表会 報告！

～自分（達）で課題を設定しアプローチ～

前南の「探究活動」、リニューアルしたシン・カリキュラムで活動している2年生。2月17日に1年間の探究活動の発表をおこないました。外部機関に質問訪問をおこなう班もあり、お世話になった企業、自治体、研究所の方々も発表会を参観に来ていただきました。数号に分けて、1, 2年生の探究活動を特集します。新たなカリキュラムで生徒に最大限の効果を出そうと試行錯誤する教師、探究活動の意義・意味を理解し答えのない問題に立ち向かう生徒達の奮闘記です。(編集 教頭)

1. 2年探究活動の「内容」

◇地域(主に前橋市)×探究【課題解決型】 ◇学問×探究【学問追究型】

- ①自分が興味・関心のあるテーマ・課題の設定・・・フィールドを地域(主に前橋市)、学問に設定
- ②探究活動の中で外部機関(自治体、企業、大学、研究所等)を訪問し、新たな知見を獲得、自分達の解決案の提案、考えをぶつける
- ③2月に探究活動のまとめを発表・・・「成果発表」の側面はあるが、探究活動の「経過」「過程」の発表を重視

2. 探究活動をおこなう意義・意味

将来(大学受験の時、社会人になって)必ず役立つ

探究活動も単なる「調べ学習」にならないように、発表会も無理矢理まとめて「成果が出ました」とまとめることがないように伝えてきました。課題解決、学問追求に向けて、アイデアが浮かんだけど壁にぶつかり(問題点が見つかり)、その壁が解消となったけど違う新たな壁(問題点)が出てきたり、

最初の仮説が甘かったので、なぜその仮説ではダメだったのかを検証し仮説の再設定をおこなったり、、とこれを繰り返していくのが「探究活動」です。答えが簡単に出ない、原因が複合的に絡み合っている問題を扱っているわけですから、「課題が解決しました」「実現しました」と簡単にはいかないわけです。この訓練(探究活動の「思考」)がこれからの社会を生き抜くのに必要な能力となります。そして、大学での研究も、探究の方法、探究活動の思考がそのまま生きてきます。大学側も、総合型選抜、学校推薦型選抜で「探究の方法、探究活動の思考を理解している高校生」「探究のテーマが自分事から始まっている、探究活動を自分事



としておこなっている高校生」を取りたがっています。

まずは「意義・意味」を理解するところから



1, 2年生もこういった意義・意味を理解するところからスタートしました。「とりあえず体裁を整えて失敗しないように発表でき

ればいい」「(自分たちで調べればわかることを調べずに)質問訪問で質問すればいい。そしてそれをまとめて発表すればいい」と(探究活動ではない、いわゆる「調べ学習」にとどまってしまう)なかなか探究活動の意義・意味を理解できていない生徒もいました。生徒は普段の学習(予習、復習、テスト勉強、受験勉強)に加えて、部活動、生徒会活動などもあり探究活動だけをやっているわけではないので、じっくり探究を考えおこなう時間がありませんので、探究活動の意義・意味を立ち止まって考えられない生徒がいるのもある意味仕方のないことです。それでも、上記の「探究活動の意義・意味」を理解すれば、将来(大学受験、社会人)必ず自分のために役立ちます。例えば、「受験のために英単語をたくさん覚えるのに時間をかける」のと同じように、「探究活動を頑張る」ことは受験で合格する可能性を高めるわけです。



3. 2/17 探究発表会を終えての感想

①探究のテーマ ②探究活動の内容 ③探究をおこなったのふりかえり(課題、新たな発見・疑問など)

①未来を切り開く力 女性の社会進出と共に進む未来(2年)

②「女性の社会進出の向上」に向けて探究した。女性は管理職に就く人が少ない、家庭との両立が難しいといったイメージはいまだに社会に残っている。そこで、女性も働きやすい環境づくりのために行われていることなど女性の社会進出の現状や課題を知り、自分たちの将来や進路により深みを持たせることを目的とした。県庁とサンヨー食品に訪問し、さまざまな視点からの意見や情報収集をした。結果私たちにできることは、差別用語を使わないように意識し、子育てと仕事は深く関係していて、周りからの支援は必ず必要であり、頼ることも大事だとわかった。

③探究活動を通して、正解を探すよりも問い続ける姿勢の大切さを学んだ。調べるほど新たな疑問が生まれ、物事を多角的に見る力が少しずつ身についたと感じる。自分の考えを深める貴重な時間だった。



①未来を切り開く力 女性の社会進出と共に進む未来(2年)

②「女性の社会進出」という言葉を聞くが、男女格差のイメージはいまだに社会に残っている。そこで、女性も働きやすい環境づくりのために行われていることなど女性の社会進出の現状や課題を知り、自分たちの将来や進路について考える手がかりにしたいと思い、このテーマを設定した。主に企業を訪問して得られた情報を参考にした。私たちは高校生のうちにさまざまな経験を積み、今を全力で取り組むこと。社会はジェンダーにとらわれない支援を行なっていくことが大切。誰もが働きやすい柔軟性のある働き方が必要だとわかった。

③今回の探究では初めての経験がたくさんあり慣れないことの連続だったのでうまく至らない点や外部に失礼がなかったか不安ですが優しい企業の方々の協力もあり円滑に進めることができました。班で団結して作業するのは少し難しく苦労することもありましたが一人一人が意見を出し合ってよりよい結果につながられたと思います。この探究を機に自分にはまだまだ未熟で多くの方の支援を受けているのだと感じました。これからもっと力を伸ばして自分自身で社会に活躍できるような人になりたいと思いました。

【所見・アドバイス】③で「調べるほど新たな疑問が生まれ」とあります。その疑問達を解消するためのアプローチを3年一学期の総合的な探究の時間で継続してみると良いでしょう。いわゆる「探究」の2周目に入るわけです。探究が深まっていきます。もう一つアドバイスすると、女性の社会進出の問題点を、いくつかの観点・分野で分けて整理してみると良いでしょう(「多角的に見る」とはこういうことです)。ジェンダー(社会の意識)、企業(採用、勤務制度など)、法律、教育、女性の意識など。問題解決もその観点から一つ一つ、または複合的に考えて解決案を考えてみよう。そこまで行けたら、残りは「大学で探究の続きをやりたい」でいいんじゃない? 【次号に続く!】